

東部スラッジセンター汚泥焼却設備工事 起工式を開催しました



9月17日（水）10時から、神戸市東灘区向洋町東2丁目1-1にあります東部スラッジセンターで、1系汚泥焼却設備の解体・改築工事の起工式を行ないました。

東部スラッジセンターは、神戸市の下水汚泥全てを焼却処理するため、今から22年前に建設された施設です。これからは安定した汚泥焼却処理をおこなうために、平成20年3月から平成25年3月までの工期に、設備を運転しながら1系列ずつ工事をすすめて、焼却設備2系列を更新します。

新しい焼却設備は、次のような特徴があります。

1. 汚泥量の変動に耐えられる十分な能力を有する。
2. 高温焼却することで、温室効果ガスである一酸化二窒素排出が3割削減できる。
3. 熱回収につとめ効率的な処理ができる。
4. 最新の法規制をクリアする排ガス処理性能をもつ。
5. 補助燃料を重油から天然ガスに変えることで、二酸化炭素排出量が低減できるほか、下水汚泥から生まれた、こうべバイオガスも利用する。

このたび、第1系列の本格的な解体着手を前に、地元自治会代表者をはじめ、下水道関係職員、運転管理関係者、工事関係者らが1号炉の前に参集して、その長年の稼働に感謝し工事中の安全を願いました。

